

シンガポールの緑化への取り組み ～シンガポールで最大級の公園、Bishan-Ang Mo Kio Park を視察～

シンガポール事務所

シンガポールでは、緑豊かな都市づくりを行うため、国の政策として「City in a Garden (緑に囲まれた都市)」を掲げ、都市の緑化に取り組んでいます。このたび、岡山県の活動支援として、都市公園である「Bishan-Ang Mo Kio Park」を視察し、国立公園庁(Nparks)の職員から説明を受ける機会がありましたので、同公園について紹介いたします。

1 「緑豊かな国シンガポール」の歴史

シンガポールにおける緑化の歴史は 1963年に当時のリー・クワン・ユー首相が提唱した植樹キャンペーンから始まり、その後、67年には「Garden City (緑の都市)」政策が発表されました。この政策は、住民の住環境整備だけでなく、緑化がもたらす“安心、快適、清潔”なイメージで海外投資家や観光客の誘致を行い、国際競争力を高めることを目的としており、公園や並木道、ビル間のオープンスペースを一体的につなげた世界トップレベルの緑化を国家主導で目指しました。

これらの取り組みは国家開発省所管の国立公園庁(NParks)が担っており、300以上の公園と4つの自然保護区、道路植樹帯など約10,000haがNParksによって管理されています。また、2011年からは、「Garden City」から、「City in a Garden (緑に囲まれた都市)」が新たな目標に掲げられ、都市公園の再生による街並みの活性化や都市環境での自然動植物との共生などが重点項目として取り組まれています。

2 Bishan-Ang Mo Kio Park とは

Bishan-Ang Mo Kio Park は、シンガポールの中心に位置し、東西に長く伸びており、公園の敷地面積は62haと広く、園内には池や橋、色とりどりの木々や緑樹があり、年間の利用者数も約380万人と、シンガポールでも広く知られている公園の1つです。

また、公園の半径2km内には、集合住宅を中心に約100,000人が居住しており、地域住民も利用しやすい憩いの場となっているのが特色です。



(出所：Worldatlas より)



(出所：Nparks HP より)

3 自然と共存した公園への再生

同公園は、1988年に周辺の住宅開発により整備されましたが、より良い住環境・自然環境を整備するため、2012年に現在の公園へと生まれ変わりました。

この公園の特徴としては、3つの遊び場（Adventure, Water, Bubble）があるほか、コミュニティガーデン（市民農園）や園内の見晴らしの良い丘陵地や親水河川があります。

その中でも、この公園の注目すべき点としては、公園内に設けたカラン川です。シンガポール川へと続くこの河川は、以前はコンクリート張りの直線であったもの（下記写真の整備前左側）を自然に満ちた曲がりくねった河川（下記写真の整備後の中央）に整備し直されました。

この整備は、関係する Nparks と水・電気・ガスを所管する公益事業庁（PUB）が ABC ウォーター・プログラム(注 1)により共同で事業実施することにより実現し、公園内の動植物を活性化させ、同公園を水に親しめる住民の憩いの場として再生させました。



(出所：Urban Land Institute Singapore 資料より)

Nparks 職員によると、この公園を再生する際のコンセプトとして、公園内のどこにいても河川に親しむことができるよう動線が考えられており、利用者は親水河川に導かれ、公園内のにぎわいを感じられるよう整備されている、また、増水時には河川として機能する場所も、通常は住民が河川敷で間近で水に親しみながら昼夜憩える、スロープ状の緑地となっているなど工夫が凝らされているほか、スコールが降っても公園内に水が溜まらないよう砂地で水はけを良くし、公園内の遊歩道の交差点は石畳にして注意喚起をするなど、安心・安全

に公園を利用できる構造となっているとのことでした。

さらに、公園内にある河川と池の水質管理は、化学製品を使わず、汚染物質を浄化する植物によって行われているほか、上流と下流の河川幅を変えて河川の流れを維持し、トンボの生態系の維持を図り、ヤゴ（トンボの幼虫）がボウフラを食べることにより蚊の発生を抑える取り組みもなされています。

また、カラスやサルなどの発生を抑えるために、餌となるゴミをゴミ箱から取れないように蓋や鍵をして徹底管理するなど、人間と動物が自然生態系を維持しながら共存できる取り組みもなされています。



餌となるゴミをゴミ箱で管理



集合住宅が隣接する公園

4 おわりに

Bishan-Ang Mo Kio Park は、2014 年 8 月の独立記念日に行われたリー・シェン・ロン首相の演説でも住民に親しまれる公園整備の成功例として取り上げられ、今後、同様のモデルを各地に広げることにより、より良い住環境を整備していくこととされています。

日本においても、各自治体において数多くの都市公園が整備され、住民の憩いの場が提供されていますが、シンガポールのように、住環境を所管する各部門の目的を統合し、1 つの公園を作り上げていく仕組みが必要であると感じました。

シンガポールの緑化の取り組みとしては、公園と公園を結ぶ歩道とサイクリングロードのパークコネクターや建物の屋上・壁面緑化など、これまで以上に緑地を増やしていくことが計画されています。今後の緑化政策についても注目していきたいと思います。

(注1)ABC ウォーター・プログラム

このプログラムは、市民をより水環境へ近づけることにより、水資源保全意識を育成することを目的として、公益企業庁が2006 年4月から開始。新しいレクリエーションスペースを提供することで活気を促進する「ACTIVE(アクティブ)」、都市景観と水の融合を図る「BEAUTIFUL(美しい)」、水質の向上を図る「CLAEN(清潔)」の頭文字をとったプログラム名称で、2030 年までには、国内100 か所以上のプロジェクトが実施される予定で、2014年6月時点では23のプロジェクトが実施済み。

(金子所長補佐 山口県山口市派遣)